

ひょうご産業活性化センターが、県内中小企業の「攻めの経営」の実現に必要な豊富な経験や専門的な知識を持つ「プロ人材」の採用を支援するために設立したひょうご専門人材相談センター。2015年の開設以来、多くのプロ人材の採用を実現してきた。17年度より、新たに地域活性化の取り組みを人材面で支援することとし、今回西脇市など北播磨の各市町に広がる地場産業「播州織」のブランド再構築に乗り出した。

## マーケット不在ブランド化が難航

■亀井■当センターでは中小企業からの相談を受けて、我々マネージャーが企業の人材ニーズを聞き取って明確化。複数の人材紹介会社と連携し、課題に合ったプロ人材の採用を支援するマッチング事業を手掛けてきました。兵庫県では、相談件数約400件、成約件数70件の実績を上げています。

播州織がブランディングで課題を抱えていることは、昨春開催されたシンポジウムや西脇商工会議所が主催する異業種交流「播州織ブランド周知拡大」事業で知り、当センターから組合へ声掛けさせていただきました。私はかつてアパレル業界に在職していたこともあり、実力を知っている堀口氏に白羽の

矢を立てて、プロ人材としてまずブランドマップ(企画書)作成を手掛けてもらいました。

■棚倉■当組合は播州織で産地流通や製造管理を担う産元商社13社で構成する団体です。播州織は主にシャツやストールなどの生地素材として使われ、糸の状態で染める先染め技法で知られています。

ブランド確立は10年前からの取り組み。しかし、ロゴマークを作ってはみたものの、素材を主体とした産地のため、消費者らユーザーへの訴求効果が見えず、この1年間で販売が落ち込みました。一方で、シャツや雑貨などの最終製品を自社企画する組合員も出ています。

## 地場産業の課題、プロ人材の目で浮き彫り

# ひょうご 専門人材相談センター、 「播州織」支援

ひょうご専門人材相談センター 戦略マネージャー 中小企業診断士 亀井 芳郎氏 / 播州織 産元協同組合 理事長 棚倉 和久氏 / ネイムス 代表取締役 クリエイティブディレクター 堀口 秀司氏(写真左から)

## ブランディングとは方向性の「見える化」

■亀井■製造主体の地場産業で共通する課題は、プロのマーケットがないこと。今回の3者で顔を合わせる機会は限られていますが、堀口氏はマーケットの目で関係者に事前ヒアリング。昨秋、3者会合の場でマップを提案していただきました。

■堀口■ブランディングとは、販売促進や販路開拓まで含めて、方向性を「見える化」する仕事です。川上と川下との認識ギャップを第三者の目で分かりやすく示したり、現場のモチベーションを上げたりすることも役割です。

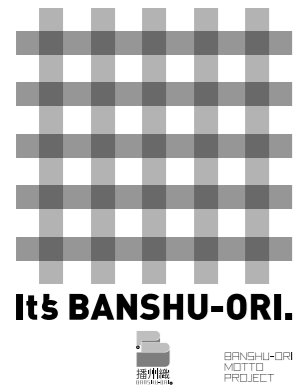
旧知のアパレル関係者に尋ねても、播州織という言葉でピンとくる人は少数。ただ、先染めという言葉は皆知っており、シャツ生地は誰でも使う素材です。「日々愛用している製品」であることを、アパレル関係者や最終消費者にまで訴求できるように、ポピュラーなギンガムチェック柄を切り口にイ

メージを膨らませ、販促や製品、売り場展開に落とし込んだマップを作成しました。

■棚倉■方向性が具体的なマップであり、組合員からは「これがプロの仕事か」との声が上がりました。ただ先述の通り、企業によって事情は異なる。次の段階では組合全体と有志企業で進めることを分けることが大事だと思えます。

■亀井■今後もマップを具体的な行動へと移すための支援を続けていきたいと考えています。

いつも  
わたしの  
そばにある  
それは播州織。



広告

〈企画・制作〉  
日本経済新聞社クロスメディア営業局

兵庫県プロフェッショナル人材戦略拠点  
ひょうご専門人材相談センター  
(公益財団法人ひょうご産業活性化センター内)

TEL:078-977-9078

E-mail:h\_jinzai@staff.hyogo-iic.ne.jp